



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第293号

2020年4月9日発行

編集・発行：情報委員会

2019～20年度 テーマ

素敵に輝いて 素敵なクラブライフを！

第 293 回 例会 (中止)

令和 2 年 3 月 12 日 (木) に予定されていましたが第 293 回プロバスクラブ例会は中止となりました。理由は新型コロナウイルス蔓延防止の為です。このため、毎月例会の状況を掲載しているプロバスだよりは報告事案等がありません。しかし、第 1 回の例会から発刊を続けているプロバスだよりを欠番にすることは好ましくないと考え、ページ数を減らして発行することとしました。

従って 4 月号の内容は今回の新型コロナウイルス対策にどう対応したかを幹事報告の形で記録に残したいと思います。

さらに、この秋に予定されていますプロバスクラブ創立 25 周年記念事業の準備状況をお知らせし、皆様のご理解と御協力を頂きたいと考えました。

以下、3 月 30 日に開かれました「25 周年準備委員会」の決定事項等を杉山委員長からの報告の形で掲載します。

幹事報告

一瀬 明

今回の新型コロナウイルス感染の拡大は我々のプロバス活動にも(第 24 回生涯学習サロンの全面中止や 3 月例会の中止など)大きな影響を与えました。

ここ 1 か月間ほどは、これ等への緊急対応に振り回されて来ましたがその間の経緯を 3 月 10 日時点でまとめておきたいと思います。トピックスを図示します。

(1) 野外サロンの中止

2 月 19 日 臨時拡大理事会



(2) 学習サロン本体の中止

2 月 22 日 幹事—地域奉仕委員長協議

(3) 3 月例会の中止

3 月 5 日 定例理事会

まず判断を急がれたのが野外サロンをどうするかでした。高齢者の集団がバスでかつ演芸場という閉鎖空間に長時間滞在することのリスクであります。今となっては即中止の事例でしょうがその当時はまだそれほど切迫感はありませんでした。決定を遅らせるとキャンセル料も発生という問題もあり 2 月 19 日急遽地域奉仕委員会幹部も含めた臨時の拡大理事会を開き地域奉仕委員会からの発議通り中止を決定いたしました。

同時にさらに状況が悪化することに備えて、迫っている開講式を含め学習サロン本体の開催可否は

① 国や地方公共団体からの勧告や指示が出た場合には中止を含め柔軟に対応する。

② 緊急な場合には幹事と地域奉仕委員長間の協議で決定する。

ことを席上で確認しました。

そうこうするうちに八王子市に「新型コロナウイルス感染症危機対策本部」が設置された(2月17日付)ことが判明し内部通達もあることがわかりました。

それを武田委員長が入手「中止すべき条件にサロンが限りなく抵触すること。またこの事業が八王子市の後援いただいていることもあり、市の方針に準拠すべきとの判断から全面的な学習サロンの中止を決断し翌日から事後処理に移行しました。

その後状況は一向に好転せずむしろ悪化の一途をたどり 3 月 5 日の理事会にて 3 月例会開催の可否を検討しましたが(1)(2)の流れの延長で、これに抗う積極的な理由も見いだせず、万一を考え中止することにいたしました。近隣の多摩・日野プロバスクラブも同様な対応をしていることも判断材料になりました。

25年の歴史の中でかつてなかった異例の事態であり、ここに記録として止めておきたいと思えます。

クラブ創立25周年記念事業について

準備委員会委員長 杉山 友一

当プロバスクラブは、クラブ創立以来5年の節目毎に、地域奉仕をテーマに記念事業を実施してきました。そして、本年10月には丁度四半世紀のエポックに当たることから、飯田会長新年度7月総会で早々と準備委員会が発足し、この3月30日には第6回目の打ち合わせ会議を終えたところです。

準備委員会では当初から、当クラブが青少年に的を絞った事業として八王子「宇宙の学校」で高い評価を得ていることから、今回の記念事業も青少年奉仕の領域で地域社会に報いたいとのスタンスを確認しておりました。そんな中で決定されたプログラムがこの「次代を育てる はばたけ未来!! 音楽祭」(八王子市文化芸術振興条例協賛事業)であります。

そして、事業のコンセプトは、子供たちは家庭と地域で育てるという思想を確認して、「つながろう人の輪 地域の輪」とし、その旗の下に、物心両面からこの事業を支えて下さる幾つもの共催団体、協賛団体、協力事業所、後援機関・団体の連鎖が出来ました。そのど真ん中に今私たちの東京八王子プロバスクラブがあります。

さて、出場する①八王子市立清水小学校は、甲の原中学校との一貫教育を旨とした地域運営学校として、学校・家庭・地域で共に育てる教育を掲げていて、その思想の中心に位置しているのがブラスバンド部です。②八王子市立上柚木小学校の合唱部は市立小70校の頂点に立つ一級品。③八王子市立松が谷中学校吹奏楽部は市内中学37校の頂点に立つ実力校。④東京都立松が谷高等学校和太鼓部は、各種のコンクール受賞歴多数で和太鼓を目指して受験生が集まるほど人気校でもあります。余談ながら、実は飯田会長のお孫さんが当校和太鼓部の出身でこの4月からは晴れて教職課程選考の大学生です。⑤当日プログラムの掉尾を飾るのは、我がクラブのご同輩塚本吉紀会員(理事長)の八王子学園八王子高等学校吹奏楽部の演奏です。当校の演奏は言わずもがな、国内演奏、海外演奏共に経験豊かな名門校として定評があります。⑥番外として、我がクラブの男声合

唱団シニアダンディーズも、当日は心を込めて次代に向けてエールを送らせていただく予定です。なお、八王子市立の出演小学校2校・中学校1校の3音楽部へは芸術文化奨励の見地から活動支援品の贈呈を計画しておりますが後日内容の確定後に改めてご報告いたします。

何れに致しましても、本事業に関しましては5月に予定されるクラブ総会に予算を含めて執行部から皆様にお諮りする手筈となっております。

ときに今、新型コロナウイルス感染症の嵐が世界中を吹き荒れています。改めて誰もが見えざる強敵に畏怖や諦観の念を抱いています。一日も早い終息が望まれるわけですが誰にもその趨勢は読み切れていません。そんなことから現実問題として、先述の記念事業の実施が危ぶまれる事態が生じかねないとも考えております。4月末頃には関係各所との関連性から事業実施の可否の判断を迫られることもあるかと思料しているところです。今後ともご理解ご協力を賜りたく何分よろしくお願い申し上げます。

なお、下記に掲示した「事業の広報チラシ」は5月の例会時にお配りする予定です。

東京八王子プロバスクラブ創立25周年記念事業
(八王子市文化芸術振興条例協賛)

次代を育てる はばたけ未来!! 音楽祭

「つながろう 人の輪 地域の輪」

2020/10/3(土) 12:30 開場、13:00 ~ 16:00

いちろうホール(大ホール) 無料(整理券有・全席自由)

※入場整理券は出演校ほか各関係団体に限定して配布します
※乳幼児など、就学前のお子さまのご同伴・入場はご遠慮ください

八王子市立清水小学校ブラスバンド部
地域に溶け込む 地域連携学校の代表

八王子市立上柚木小学校合唱部
NHK全国合唱コンクール 東京都の常連校

東京都立松が谷高等学校和太鼓部
受賞歴多数 東京地区のリーダー的存在

八王子市立松が谷中学校吹奏楽部
感謝の心を込めて 東日本大会常連校

心を込めて シニアから次代にエールを送ります

八王子学園八王子高等学校吹奏楽部
国内演奏・海外演奏 経験豊かな名門校

東京八王子プロバスクラブ
シニア・ダンディーズ(男声合唱)

主催：東京八王子プロバスクラブ 共催：八王子ボランティアネットワーク(創立20周年)
協賛：八王子市青少年対策地区委員会、八王子母の会・高尾母の会・南大沢母の会、
国際ソロブピスト八王子、八王子東京パイロットクラブ、マルベリー東京パイロットクラブ
協力：八王子織物工業組合、株式会社環境管理センター
後援：東京八王子南ロータリークラブ、東京八王子北ロータリークラブ、八王子市・八王子市教育委員会

ボビーの思い出

[My name is Bobby, 1987～2004]

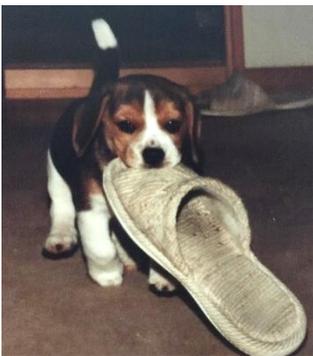
山野 稔

これは僕ビーグル犬のお話です。既にこの世にはいません。今から17年前、僕が16歳になった頃に僕のおしゃべりを父がパソコンに記録したもので、今回とりあえず三話をファイルから取り出してもらった。この先もし機会があれば、僕ボビーの楽しくもあり苦くもあったベルギーの生活も少しは紹介してみたいと思う。それじゃ～レッツゴー！



(その1) 自己紹介

僕は立山連峰の見える富山生まれ、れっきとした血統書付きの背丈13インチ・ビーグル犬、名前はボビー。昭和62年10月19日生まれ、若いころは近所でも評判のハンサムボーイだった。生後一ヵ月半飛行機に乗せられて羽田空港へ。空港荷物引渡し場所で新しい父と初対面、僕の東京生活が始まった。家まで車で一時間の長旅で、途中オシッコをもらしてしまっただけ、父は怒ることも無く“ヨ～シヨ～シ”と優しくかった。



初めての夜は寂しくて眠れずヒイヒイと泣き続けていたら、父が何度も抱っこをしてくれて、拳句はケージの中に手を突っ込んで優しく撫で続けてくれた。それでも僕は富山の実家が恋しくてあ

の夜は眠れなかった。新しい家族はサラリーマンの父、専業主婦の母、双子の兄貴達(13歳)と姉(7歳)で、一家を挙げて大歓迎をしてくれた。

先月(2003・10)には誕生日も来て16歳になった。いつものように同じ誕生月の父と赤飯で祝ってもらった。最近足腰がめっきり弱ったが、食欲は依然旺盛、今でも悪戯はたまにやる。しかし、そろそろ自

分の一生を振り返って見たいと思い始めた。言葉は体では喋れるけれど生憎字は書けないので、父に代筆してもらいながら、楽しかったこと、悲しかったこと、怖かったこと等、自分の犬生を振り返って皆さんに報告してみたい。

何せ16歳、人間の年齢に換算すると昔なら7掛けの112歳にもなる。でも今は食生活・医学もウント改善され健康的な生活が出来る時代。医者者の定期健診も受けているのでいたって健康状態は良好、実際には80歳相当のレベルかも。

(その2) ほろ苦い散歩デビュー (僕は犬が苦手)

生後45日で東京生活が始まった。一ヶ月間は寒いからと言われて家で過ごし、チョッピリ庭で遊んだ。でもその後も予防接種の免疫がつくまでは近所を少し歩く程度だった。初めのうちは家に戻ってから、我慢していたオシッコをするので家族のみんなから笑われたよね。3月になり暖かい日も多くなったし、一人前に電信柱にオシッコもかけられるようになったので、もうそろそろイイかな！と多摩川堤防での散歩デビューの日がとうとうやって来た。満を持したと言うよりは随分出遅れた感じがした。

家族に連れられて、シッポで話をしながら気持ち良く歩いた。ウン！ヤッパリ気持ちイイや。ところがだよ、トコロガダヨ、向こうから変な顔の大柄な奴がシッポを振って近寄って来るじゃないか。オイオイ来ないでヨ！僕はおまえなんか知らんぞ！“あっちに行け、早くあっちに行け！”って大声で騒いだらそいつはフンと言って去って行った。そしたら、またまた別のへんてこりんな女の子(?)がクンクン匂いを嗅ぎながら僕に近づき、ともかく積極的でもうビックリ。

こりゃダメだ逃げるしか無いと思い慌てて走ろうとしたら、母が“ボビー、友達よ！怖くないよ”と言ったものだから仰天、もう僕は訳が分からなくなってしまった。帰ろうヨ！と急いで逃げるように速足で息咳切って家に戻ったことを今でもハッキリ覚えている。家族との散歩だけなら楽しくて嬉しくて良い気持ちだけど、堤防に行くに変な奴達が近寄ってくるので苦手。家族は“ボビー、友達だよ”って言うけど、僕は怖いしあんな連中はイヤ。あんな奴は友達じゃ無いよネ。僕は家族と同じ仲間、あの変な連中とは違うんだ。でもヒョットするとあいつ等

が所謂“イヌ”と呼ばれている連中だな。前途多難だゾ……。僕の散歩デビューはほろ苦かった。

(その3) 猛犬注意!

ほろ苦い散歩デビューから一年が経過した。何と云っても散歩は大好き。でも犬たちと会うのは相変わらず苦手で、出来るだけ知らん振りをして歩くことにした。ホントに馴れ馴れしい奴もいれば、僕と同様に犬嫌いの奴がいることも分ってきた。

イヌは親と兄弟犬で生後3ヶ月位過ごすことによってイヌの習性を身につけるということを、母は後になって知ったそうだ。後の祭りだけど、僕はイヌとして正しく育てられず過保護にされたようだ。今更あれこれ言っても仕方が無いけど。

散歩の時は家族の一人と出かけるよりは、もう一人加えて二人と一緒に出たほうがウント楽しい。“ポビー、嬉しそうだね”って言われるし、僕も怖いもの無しでスイスイ歩ける。オシッコだってウンチだってユックリ出来るしネ。だから出かける時は二人と一緒にいけないものかと思うけど、どうしても一人しかお伴をしてくれないこともある。そんな時は玄関で座り込んで抵抗してみる。すると“さあ行こうヨ!”って抱っこされて連れて行かれた。でも30メートルも歩かないうちに“さあ歩こうか”って直ぐに降ろされてしまうけれど、抱っこされる気分って悪くないよ。景色がよく見えるし、何よりも自分が大きくなった気分になれるので大好きだったなあ。

16歳の今、足腰が弱り散歩の機会はめっきり減った。でも外の匂いを嗅ぎながら歩くのは相変わらず楽しい。暖かい日に近所を少しだけ回ってくる程度だけど。今じゃ目も耳も悪くなったので、イヌとかネコの気配を感じなくなって来た。勿論あいつ等は今でも苦手だけど、家族は僕が他の犬に吠えなくなったので「お利口そうに見えるよ」と言っている。以前は宅配便や郵便屋さんについつい大声で吠えていたけど、この頃は“ピンポン”が聞こえず玄関に飛び出すことも無くなり静かなものだ。

体重9kgのスリムなビーグル、年老いて体も小さくなったが、なぜか吠え声だけは相変わらず大きくて大きい。今ではこの声は食事の催促と留守番役で寂しい時の泣き声に使っているだけなのに、今なお我家には“猛犬注意”の札が2つもかかっている。どうやら僕のことらしい。

俳句同好会便り

私の一句〈三月の句会から〉 河合 和郎

コロナ対策により、生涯学習サロンも3月の定例会も中止となった。何か息の詰まりそうな日々の中で、せめて句会だけでも。(句会の持ち方は色々ありますので工夫をしながら)。

悪しきもの覆ひ鎮めむ春の雪 池田ときえ

「悪しきもの」は勿論コロナ。日本がいや世界が対応策に大童。作者の切なる願いがこもる一句。

イヤホーン洩れくる春やビバルディ 田中 信昭

イヤホーンからビバルディの四季の曲が漏れ聞こえる。それも春の楽章が。音楽と季節の春の共鳴。

落椿姿そのまま石の上 下山 邦夫

寺の石段にでもこぼれた椿の花であろうか。俳句は写生に始まる。見た儘を十七文字に。これでいい。

盆梅の仄かに匂ふ日和かな 飯田富美子

香りの写生句。五感で感じた儘を詠む。そこに共鳴が生まれる。繊細な感性が捉えた佳句。

啓蟄や歯の虫までも動き出し 馬場 征彦

俳諧味満点の一句。啓蟄と虫歯の取り合わせがいい。この句は中七の着想で決まった。

のどかなり和尚が庭で箒持つ 野口 浩平

何となく滑稽味のある作品。寅さんを叱る和尚を彷彿とさせる。俳句は一人歩きをするから面白い。

白梅や緋模様に空染めて 東山 榮

白梅の咲く様子を緋模様に例えた発想が面白い。青空に白い梅の花が刻まれた景が美しい。

山寺の里を包みし鐘臙 矢島 一雄

時は春。山寺の鐘の音がおぼろに烟る里山を包む。日は西に落ち人々は家路を急ぐ。水墨画の一景。

土筆摘む指に冷たき畦の土 河合 和郎

土筆は春の摘み草として親しまれてきた。ほろ苦い食感を決して美味ではないがその昔が懐かしい。

編集後記：新型コロナウイルス禍により3月の定例会は中止。プロバスだよりも4ページの変則的な発行となった。10月に予定されている当クラブの創立25周年記念事業を心から祝えるよう、この新型コロナウイルス禍の一日も早い終息を願って止まない。
情報委員会